



証券コード: 9268

# 2026年3月期 通期 決算説明資料 (スマートフォン向けサマリー)

2026年5月15日

## Agenda

- ① 決算ハイライト
- ② 通期業績 | 財務サマリー
- ③ 通期計画 | 外部環境予報
- ④ 中期経営方針
- ⑤ 基本情報

# ① 決算ハイライト

## <26/3 通期実績>

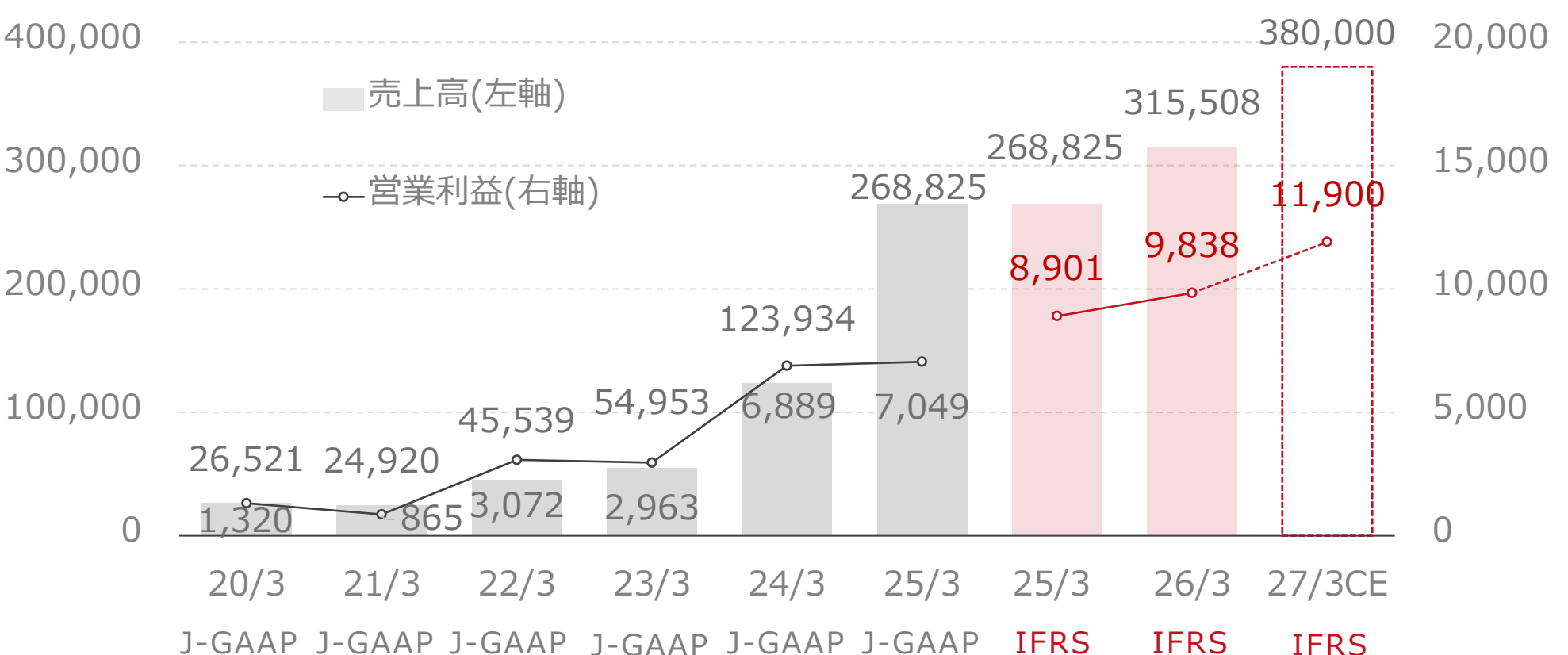
- 売上高は前期比+17.4%の3,155億円だった。期初計画2,880億円を9.6%上回った。総じて、各地域の取扱台数は計画をやや下回ったものの、単価向上と円安効果（前期比では横ばいだが計画比では円安に振れた）で超過相殺した。なお、売上高は会計基準変更に伴う影響はない。
- 営業利益はIFRS基準で前期比+10.5%の98億円だった。IFRS計画値102億円を3.5%下回った。各地域の取扱台数やAutopactの粗利率が当初計画をやや下回った影響を受けた。
- 修正ネットD/Eレシオは25/3末の3.12倍から26/3末に2.23倍まで改善した。26/3末に実施した永久劣後特約付ローンによる資金調達102.6億円（ディーラーフィー等を除く）がIFRSでは資本算入される上、着実な収益改善で利益剰余金が積み上がり、財務体質が改善した。

## <27/3 通期計画>

- 売上高は前期比+20.4%の3,800億円、営業利益は同+21.0%の119億円、親会社株主利益は同+29.6%の32億円を計画する。NZ市況改善に連れた収益回復、欧州その他地域への中古車輸出や検査拡充による収益上積みが全社業績を牽引する。一方、AUビジネスは慎重な見通しとした。なお、為替前提は概ね26/3期通期実績と同水準で織り込んでおり、大きな差異はない。
- 27/3期の通期配当金は18.00円（中間=8円、期末=10円）と見込む。永久劣後特約付ローンの資本算入を除く修正株主資本に対し、中期経営方針で掲げるDOE4.5%を適用し算出した値である。

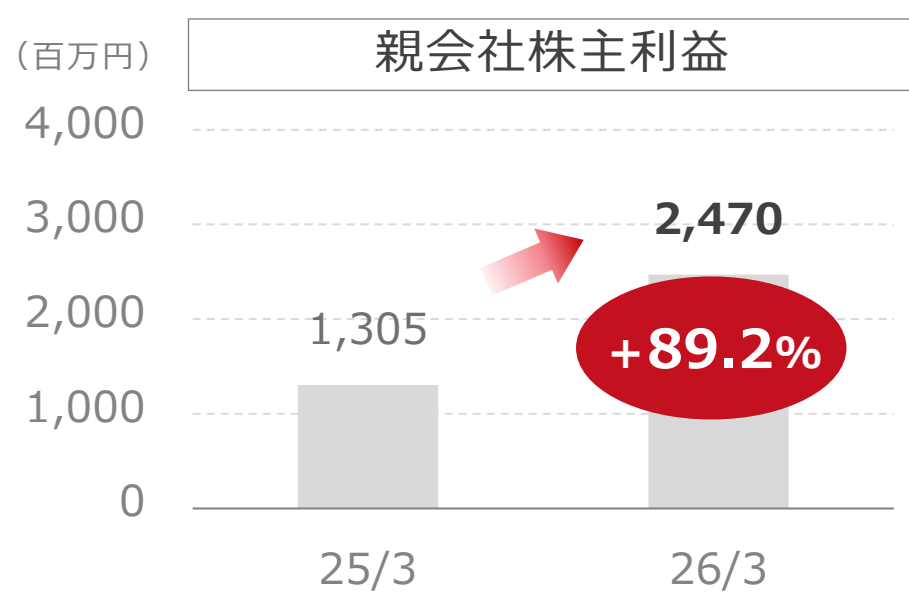
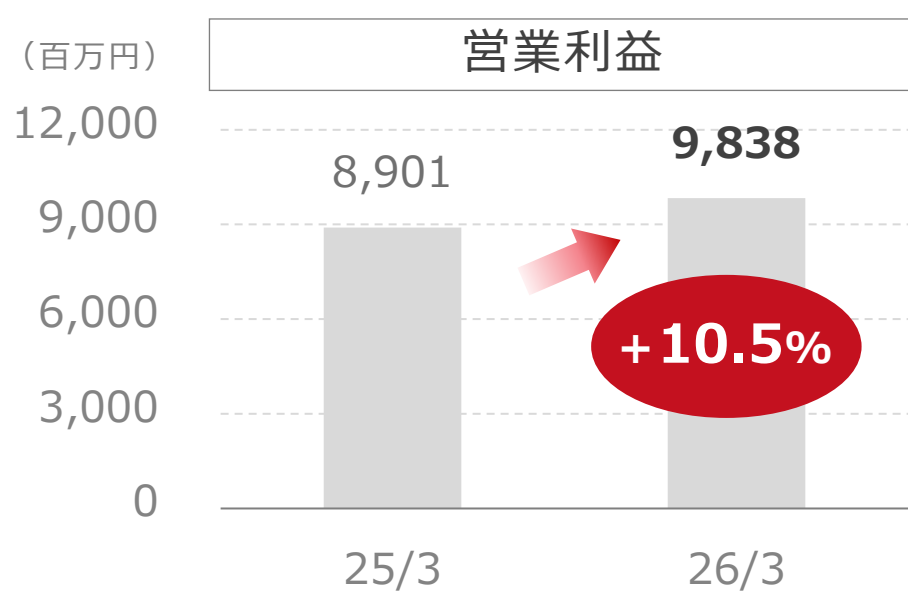
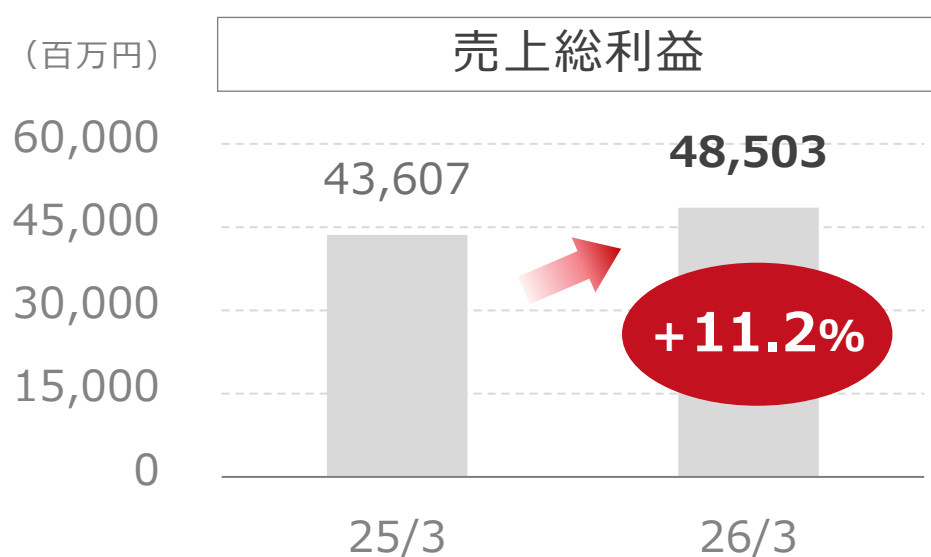
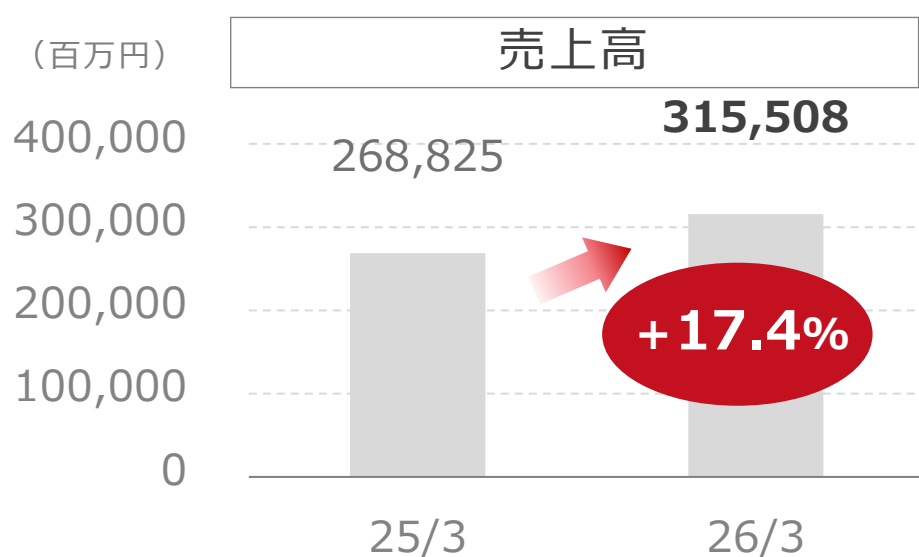
### ○ 売上高と営業利益の年次推移

IFRS (百万円)	25/3期	26/3期		27/3期	
	実績	実績	YoY,%	会社計画	YoY,%
売上高	268,825	315,508	+17.4	380,000	+20.4
営業利益	8,901	9,838	+10.5	11,900	+21.0
税引前利益	2,920	4,496	+54.0	5,000	+11.2
親会社株主利益	1,305	2,470	+89.2	3,200	+29.6
EPS (円)	19.83	36.16	+82.3	46.75	+29.3
DPS (円)	18.00	18.00	+0.0	18.00	+0.0
修正ネットD/Eレシオ	3.12x	2.23x	-	-	-
自己資本比率	15.4%	19.6%	-	-	-
修正自己資本比率	18.9%	24.7%	-	-	-



## ② 通期業績 | 財務サマリー

各段階収益共に前期比**2桁成長**を確保した。降電影響やAU自動車メーカーの供給圧力等で収益性が低下したものの、トップライン増でカバーした。修正ネットD/Eレシオも**2.23倍**と健全水準にある。






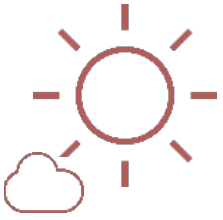





項目 (百万円)	25/3期	26/3期		会社計画	計画比
	実績	実績	前期比		
売上高	268,825	315,508	+17.4%	288,000	+9.6%
売上総利益	43,607	48,503	+11.2%	-	-
販管費	△34,673	△39,166	+13.0%	-	-
その他の収益	126	683	-	-	-
その他の費用	△159	△182	-	-	-
営業利益	8,901	9,838	+10.5%	10,200	△3.5%
金融収益	345	1,272	-	-	-
金融費用	△6,231	△6,410	-	-	-
持分法投資損益	△96	△204	-	-	-
税引前利益	2,920	4,496	+54.0%	5,900	△23.8%
当期純利益	1,814	2,719	+49.9%	-	-
親会社株主利益	1,305	2,470	+89.2%	3,100	△20.3%
修正ネットD/Eレシオ	3.12x	<b>2.23x</b>	-	-	-
自己資本比率	15.4%	19.6%	-	-	-
修正自己資本比率	18.9%	<b>24.7%</b>	-	-	-

### ③ 参考 | 外部環境予報





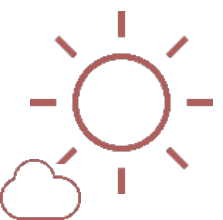
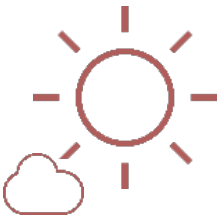

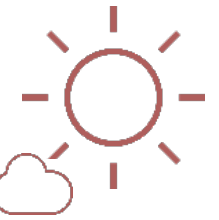




(2026/5/15更新)

個社要因でAutocareの収益性が低下見込みである点を新たに織り込んだが、その他の外部環境見通しに大きな変更はない。AUは軟調～堅調、NZは順調～好調で安定推移しよう。

#### 先4四半期の外部環境予報

前回見通し	26/4-6	7-9	10-12	27/1-3
売上高 (オーストラリア)				-
売上高 (ニュージーランド)				-
収益性				-



今回見通し	26/4-6	7-9	10-12	27/1-3
売上高 (オーストラリア)				
売上高 (ニュージーランド)				
収益性				

## ④ 中期経営方針 (2025/5/15開示内容から変更なし)

- 利益の絶対額と資本効率の**頑健的な水準切り上げ**が最重要KGI、26/3期から3年を目途に実現を目指す。
- マクロ環境に依らず一定の収益性を確保できる企業体に変化するための、①**収益力の強靱化**と、②**非連続成長の追求**が戦略骨子。

営業利益 (IFRS基準)

親会社株主利益 (IFRS基準)

**15,000 +** 百万円

**6,000+** 百万円

ROE

DOE

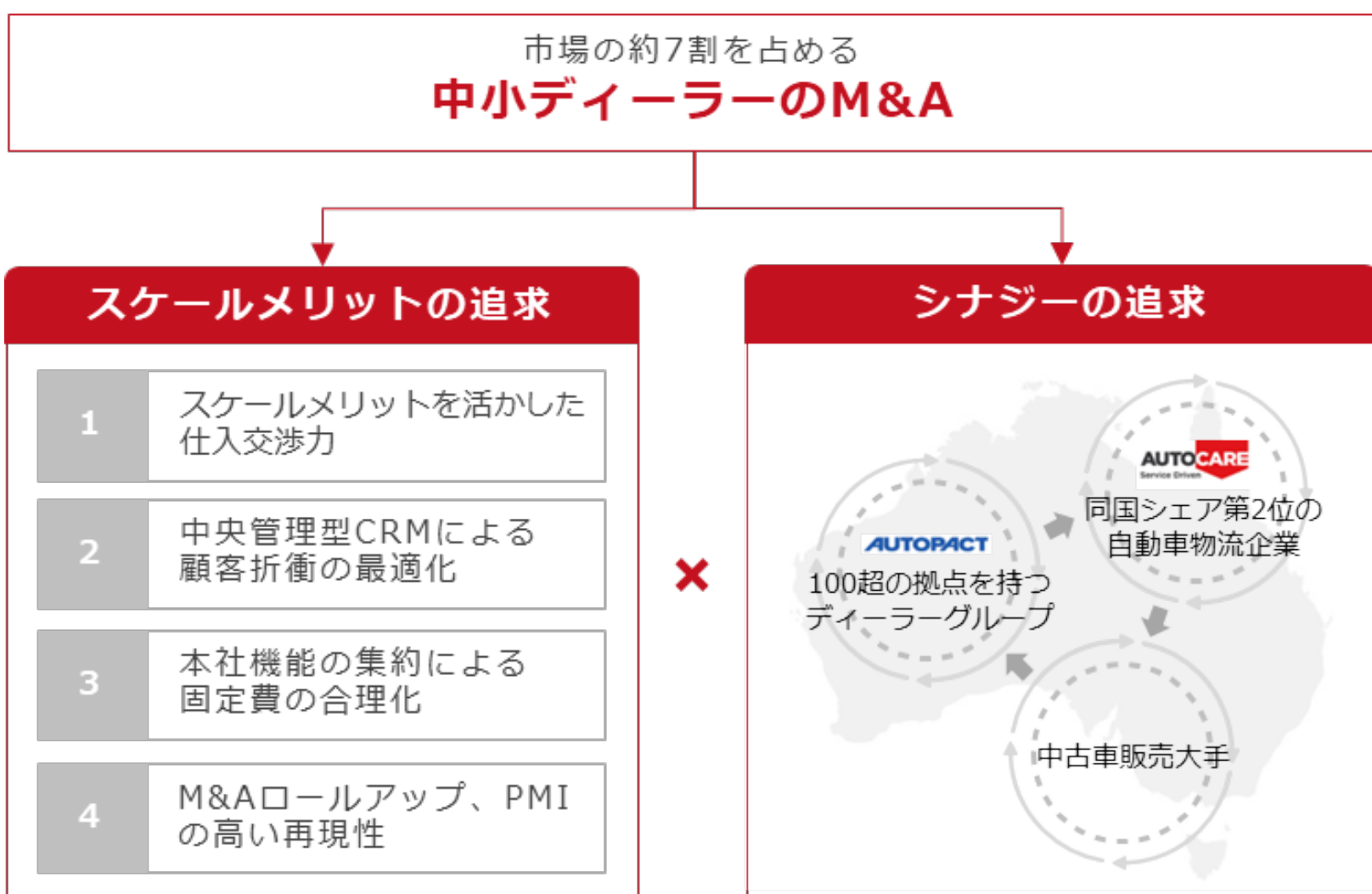
**15.0 +** %

**4.5** % 目安

### 収益力の強靱化

項目	オーストラリア	ニュージーランド他
事業ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>収益機会の多角化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中古車販売大手の中古車取扱ノウハウを活かした、Autopactの中古車販売・下取再販の拡大</li> <li>・保険/部品販売/点検/整備/修理など付帯サービスの収益拡大</li> </ul> </li> <li>• <b>顧客ポートフォリオの拡大</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Autocare × Autopactの顧客クロスセル</li> <li>・ 中国メーカーを始めとした、市場ニーズを踏まえた新規取扱開始・アロケーション変更</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ポートフォリオ分散によるリスク低減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UKなどNZ以外の輸出拡大</li> <li>・ NZでのCtoC取引仲介の拡大</li> </ul> </li> <li>• <b>キャッシュポイントの複層化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本での中古車仕入～海上輸送～サービス/2次流通までの一気通貫したバリューチェーンモデルの更なる深化</li> <li>・ IT/データ活用による顧客管理の強化を通じたBtoC/CtoB/CtoC領域の拡張</li> </ul> </li> </ul>
コスト構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>スケールメリットを活かしたコスト最適化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重複部門の段階的な集約</li> <li>・ Autocare(新車物流)の帰り便を活用した中古車輸送コストの合理化</li> </ul> </li> <li>• <b>最適資金調達のための管理機能の高度化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Autopactの在庫投資適正化とフロアプラン借入に係る支払利息の削減</li> <li>・ 借入条件やヘッジ手段の適正化</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>既存業務の生産性改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ システム/プロセス管理の高度化</li> </ul> </li> <li>• <b>グループ全体最適の促進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバルコーポレート機能の拡充</li> <li>・ グループ会社連携強化によるコスト削減</li> <li>・ 事業ポートフォリオ評価の推進</li> </ul> </li> </ul>

### 非連続成長の追求



## ⑤ 基本情報

会社名	株式会社オプティマスグループ（証券コード：9268）
設立	1988年4月（株式会社日貿・ジャパントレーディング） 2015年1月（株式会社オプティマスグループ）
代表取締役社長	山中 信哉
本社	東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル南館15階
連結子会社	62社（国内4社、海外58社） 2026年3月31日現在
従業員数	2,755名（連結） 32名（単体） 2026年3月31日現在
事業内容	グループ会社の推進する自動車総合サービス（輸出入、物流、検査、サービス、小売/卸売）の経営管理及びそれに付随する業務

## ビジネスモデル



## セグメント情報

- 輸出入** | 日本全国のオークション会場で中古車を仕入れ、ニュージーランドや欧州向けに輸出する。
- 物流** | 中古車を海外へ海上輸送する。また、豪州で陸送するAutocareの事業も含む。
- 検査** | 輸出入時の検査や清掃/整備を担う。害虫混入防止処理をはじめ独自技術を持つ。
- サービス** | 主にニュージーランドでオートローンや債権回収補助、自動車関連商品販売、中古車オンライン取引サイト等を営む。
- 小売/卸売** | オーストラリアの自動車ディーラーであるAutopactの新車/中古車販売や関連事業が主力。

## ○ 本資料お取扱い上のご注意

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を通して、当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料に記載された将来の業績に関する記載は、当社が将来の業績を保証するものではなく、現時点において入手可能な期待・見積・予想および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を有しております。

将来の業績は、経済情勢などの当社の経営環境、事業環境の変化等により予告なく変更することがございます。

予めご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

IR・広報ユニット

Mail:info@optimusgroup.co.jp